

令和4年度自由研修会抄録

開催日：2022年7月24日(日)

演題:チェアサイドとラボサイドで共有したい模型の観察と分析の重要性

講師:水野 邦浩

内容:総義歯治療には様々な理論や、それに基づく手技・手法とシステムが紹介されてきた。治療のゴールは「適切な診査・診断と患者の主訴やニーズを歯科医師、歯科技工士が十分に理解する。それに基づき治療および総義歯製作を行うことが、患者満足度の高い総義歯を提供することにつながる。」と考えている。講演では、概形印象・作業模型から観察・分析し、口腔内で起きていると思われる歯槽骨の吸収や顎堤粘膜の状態や表面性状から、どの印象材で採得された模型なのか・どのような術式・手技・手法で採得された印象なのか・辺縁形態の観察・粘膜面の観察・解剖学的ランドマークの観察など、得られた情報から口腔内に装着される製作技工物に反映させるのかを話していきたい。

演題:デジタル化の問題点から解決策を模索し歯科技工の未来を考える

講師:菅原 克彦

内容:私たち歯科技工業界は、深刻な人手不足がさらに加速しています。国の指針である働き方改革が施行されたことで、歯科技工士の労働環境にも変化改善が要求されています。労働環境の改善には、DX化が不可欠だと考えています。デジタル技術を活用した製品やサービス/ビジネスモデル/組織/プロセスなどをDX化によって変革し、歯科技工業界の新たな成長力や競争力を確立する必要があります。本講演では、生産性向上や収益の改善を目的として、CAD/CAMシステム導入から3Dプリンタまで設備投資を行った弊社の取り組みを紹介しつつ、サステナビリティな未来への展望、日本の歯科技工業界が培った技術をより生かすために、一般工業界の動向や世界の歯科技工業界の潮流を鑑みながら未来の成長のために取り組んだ事例やIOS対応の問題点についても紹介させていただきます。